

分科会 5

運営委員：六浦 政人(修文大学短期大学部)

参加者15名(1名欠席)を①所在地 ②収容定員 ③男女比率 ④年齢からA～Dの4グループに分け、(先回の研修会報告書でも参加者より意見が多かった)参加者が自由に情報交換できる時間をつくることを目的に分科会進行を行った。分科会進行では、参加者の討議したい内容で議論を進めていくこととし、その中で、結論を見出すことを重要視せず、知恵を出し合い目的に向かうための最善の方法を探し出すプロセスやロジックを重要視し、初日は「自己・他者の理解」でお互い理解を深め、2日目以降の分科会では、様々な制約を無視し、企画の目的をロジックツリーのトップに置いて誘引～施策～フォローまでの案(方策)を各々で考え、各グループ内で討議～分科会内での発表を行った。

1) 初 日 (目的：自己と他者の理解)

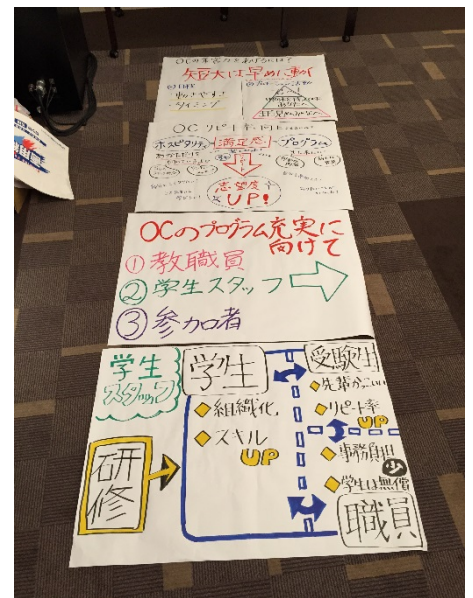
- ①初日のワークショップを受け、事前に作成を依頼した自己紹介シート・大学紹介シートで、自己紹介と他者理解を行った(自己紹介の時間は、一人2分程度)。
- ②自己紹介後、自大学の大学案内やオープンキャンパスツール等のプレゼンテーションを行い、良いと思われる制作物の上位3校の投票を行い、翌日上位3校の担当者には表彰(賞品贈呈)を行った。
※制作物については交換を行い、良い点・悪い点について意見交換を行った。
- ③2日目以降の分科会進行について説明を行った。
- ④情報交換懇談会では、お酒を触媒としてさらに自己・他者の理解を深めた。

【目標】

分科会の目的は、「コミュニケーションがスムーズに行える環境の構築(=チームビルドの根幹)」。
初対面という緊張状態から、2日目以降の分科会進行でスムーズにブレストできる雰囲気を作る。
→ 初日の講演でのグループワークや情報交換懇談会でのお酒を触媒とした語りの場を有効活用。

2) 2日目 (目的：傾聴～発見～発信～共有 → チームビルド)

- ①A～Dの各グループに分かれ、討議したい内容を各グループでブレストの上、決定し討議に移った。
因みに、
Aグループ：「オープンキャンパスのプログラム充実に向けて」
Bグループ：「オープンキャンパスでの学生スタッフの運営」
Cグループ：「オープンキャンパスのリピート率を向上させるには？」
Dグループ：「オープンキャンパスの集客力を向上させるには？」
という内容でそれぞれ討議を行った。各グループの中で各々が有機的に働きかけながら、ベターと思われる討議内容に対する方策をブレストしながら組み立てた。
- ②組み立てた討議内容に対する方策を分科会内でプレゼンテーションできるよう、模造紙に記入し、各グループ5分間のプレゼ



ンテーションを行った。プレゼンテーション後、翌日の全体発表に向け更なる内容のブラッシュアップ（「キラーコンテンツはどこにあるのか」「その施策にストーリー性はあるか」を明確化）をおこなった。

【目標】

様々な意見や知恵を様々な手法によって昇華させ、一定の方向（定めた目的）へと導いていくプロセス（過程）やロジック（論法・論理・道筋）を学ぶ。もちろんチームビルド（有機的な組織活性）の重要性も学ぶ。

面識のない広報担当者同士が、分科会を通じ、様々な思考・知識を持つ広報担当者と意見交換することで、自校での広報活動に活かすことのできる施策を模索する。また、お互いの意見・思考を尊重しあいながら自分の意見・思考を昇華することで、「脳に汗をかく」。

- 様々な地域や環境・規模で構成された各グループで、これまでの経験や様々な考えを融合させ、新しい目線を創造する。
- 普段の業務では行うことの少ない「知恵を出し合う」というプロセスがいかに大切かということ学ぶ。
- 全員で考えた案を発表することで、能動的に働きかけるスイッチが押され、受動的になっていた姿勢に変化を与える。また、それぞれが他者に働きかけることで組織が活性化できるという認識を持つ。

3) 最終日（目的：能動的な働きかけによる更なる組織活性）

- ①ブラッシュアップさせた内容を再度模造紙にまとめ、分科会内で発表（1分30秒程度で）を行い、全体会での発表に備えた。
- ②幸いにも全てのグループの討議内容が、「オープンキャンパス」というベクトル上にあったため、これまで組み立てた各グループの討議内容に対する方策を統合し、（全員で）ストーリー性を持たせた内容に組み直し、再度、まとめた方策を制限時間の5分間で発表を行うなど、発表に向けて準備を進めた。
- ③全体発表では、見事2位という結果を残すことができ、短時間でもチームビルドは可能であるということ（少しでも）意識していただくことができたと思う。

【目標】

他者を認め、他者に働きかけることで変化（能動的に働きかけることで変化）していく環境・状況を実感・目の当たりにすることで、忘れかけていた情熱や流されていた状況を少しでも打破する。また、発信することばかりに傾倒しがちな仕事を、傾聴することも同様に重要視することでさらなる組織活性が望めるということに気付かせる。



【反省・感想】

- 1) 研修会の目的は、広報担当者のスキルアップではなく、「変化の機会を与える・授かる」ことだと思われま。『傾聴』『考えぬく』『他者のいいところを吸収する』という行為に気づき、業務に生かす」という小事が、最終的には組織活性につながるはず。今後も本研修会の重要性を理解していただけるよう努力を重ねていきたいと思。い。
- 2) 分科会進行において、日常業務との兼務により用意周到とはいかず、事前に用意した企画が分科会内で行えず、まだまだ運営委員として未熟さ痛感する結果となった研修会でした。次回からは周到な準備を行い、研修会に臨みたいと思。い。
- 3) 参加者の皆様には、分科会のテーマとしていた「みんなで作る元気のもと」を業務にも、日常生活にも、(少しばかりではありますが) もたらすお手伝いが微力ながらできたのではないかと。思。い。
また、今回の研修会を通じ、自身も「元気のもと」はもとより「勇気」も頂くことができました。